

入学生の本学に対する態度・イメージと適応

—学生相談室の調査「あなた自身のために」の報告—

永田忠夫・山田洋子

Images of Her College and Student's Adaptation

Tadao Nagata and Yoko Yamada

学生相談室では悩みをもつ学生のための相談・援助活動を行っている。その機能は、いわば教育機関の中でよろず相談所か困った時のかけこみ寺だといえるかもしれない。

しかし学生相談室の役割はそれだけにとどまるのではない。最近では学生の悩み方の質が変わってきたのではないかということがしばしば問題にされるようになってきた。例えば、自分では悩んでもいないし困ってもいないが、実は不適応を起こしていたり学業に意欲をもてない無気力な学生が増加している（笠原ほか1981, 高岡ほか1980 など）。このような学生は自分から主体的には相談には来ないし、周囲からすすめられて相談に来てもまるで他人事のように笑っていたりして、不安や深刻さが見られないことが多い。

現代では、悩んだ学生が困ってかけこんでくるのを待っているという古典的な学生相談の方法だけでは十分ではなく、「新人類」ともいわれる学生気質に合わせた、より積極的なかたちの相談活動が必要になってきているのだといえよう。

さらに一歩進んで、ちょうど医学が治療から予防へそして健康の増進活動へと向かっているように、すべての学生が生き生きと積極的で快適な学生生活が送れるようにするための、心の健康の予防活動が必要だと考えられる。鳴澤（1986）によれば、「これからの学生相談室の活動として期待されるのは心の健康のオーガナイザーとしての役割と予防活動である」という。そして理想的には、学生相談室の来客が一人もいなくなって、かけこみ寺不要の状態になったときが、もっとも学生相談活動が徹底し充実している時だといえるのだという。

学生相談室のこのような役割は、Erikson のいう identity 確立の時期である青年期の教育活動の一環のなかへ位置づけられる時にさらに大きくなる。大衆化社会を迎えた現代の学生に対しては「理解できない者が悪い」「能なき者は去れ」という教育では合わないであろう。学生の本音の気持や率直な要求などを把握してその心理にまでわけいった教育がいやおうなく必要になっているのである。

そのような観点から学生相談室では、本学の学生の意識についての調査研究を行い、それを

広く教育活動の場で役立てられる情報提供を試みてきた。またそれを学生諸君にも自分自身をふりかえるための機会にしてもらいたいと考えてきた。調査の表題を「あなた自身のために」とつけたのは、そのような理由からである。今回の調査もそのような方針の一環として位置づけられる。

今回は特に本学に新学科ができて4学科になった機会でもあるので、1987年に入学した新入生がどのような態度で進路を選択したのか、どのようなイメージで自分自身と自分の学科や他学科をみているのか、学生生活の満足度や悩み度および相談要求はどの程度あるのかなどを、入学形態の違いや学科別で比較して調べた。

また1980年の調査と一部の調査項目を同一にして、今回調査との間の7年間に学生の意識がどのように変化したかについても見ようとした。

方法

調査票の構成 「あなた自身のために」という表題の調査票を作成した（付表参照）。この調査票は、本学への入学形態、本学の志望順位、本学以外の受験校、受験の際に考慮した要因について、自己イメージ、淑徳短大の各イメージ、入学後の学生生活についての満足度、悩みについて、学生相談室希望、精神健康について（UPI）で構成された。

調査票の作成に際しては、今回の研究の目的の一つである1980年6月の学生相談室調査「あなた自身のために」との比較を考慮し、本学の志望順位、本学以外の受験校、受験の際に考慮した要因、自己イメージ、精神健康（UPI）の質問項目を前回の調査票と同じにした。

各学科イメージを測定する形容詞対を作成するにあたっては、本学学生の一部に自由記述による予備調査を実施した。さらに、その予備調査をもとにコミュニケーション学科の全教員に検討を依頼し、最終的に20の形容詞対を選んだ。

調査手続き 1987年6月22日に学生課を通してクラスごとに調査票を配布し、6月30日までにクラスごとにまとめて学生相談室に提出してもらった。なお、今回の調査は無記名式であったが回収の際に個人の秘密が保たれるように封筒を配布し、各自が密封して提出ができるように配慮した（先回の調査は記名式で、各自が学生相談室へ持参する方法であった）。

調査対象者 愛知淑徳短大の1年全員831名。回収調査票数は、家政学科200名・国文学科194名・英文学科201名・コミュニケーション学科114名、全体で709名であり、回収率はそれぞれ88.5%・86.2%・86.6%・85.1%・85.3%であった。

なお、統計処理にあたってはそれぞれ分析項目に欠測値のある者を除いておこなった。

結果と考察

結果の分析 今回の報告では、調査「あなた自身のために」のうち、受験の際に考慮した要

因、自己イメージ、淑徳短大の各学科のイメージ、入学後の学生生活についての満足度、悩みについて、学生相談室利用希望を分析の対象とした。前回の調査（1980年実施）結果については、当時の基礎データに基づいて算出した。

統計処理による分析は、1980年度と1987年度入学生の比較・愛知淑徳短大に設置されている4学科（家政学科、国文学科、英文学科、コミュニケーション学科）間の比較・3つの入学形態（内部推薦入学、外部推薦入学、一般入試による入学）間の比較を基本としておこなった。

Table 1

受験の際に考慮した程度についての年代差
 -短大全体と各学科ごとの比較-

考慮要因	1987年度生	1980年度生	検定	各学科ごとの検定		
				家政	国文	英文
b 模擬試験の成績	2.84 (1.27)	2.70 (1.42)				
a 学業成績	② 1.94 (1.01)	① 1.74 (.95)	***			
g 自分のやりたい職業	2.95 (1.20)	3.10 (1.15)	*			**
c 自分の興味・関心	③ 2.04 (1.03)	④ 2.22 (1.07)	**			**
j 先生の意見	⑤ 2.64 (1.23)	⑤ 2.25 (1.08)	***	*	***	**
i 家族の意見	④ 2.25 (1.13)	② 1.99 (.99)	***	**		
k 友だちの意見	3.12 (1.12)	2.99 (1.21)	*			
d 親の職業	4.40 (.96)	4.26 (1.00)	**			**
e 家庭の経済力	3.12 (1.22)	2.90 (1.22)	***	**	**	
f この短大の評判	① 1.93 (.91)	③ 2.10 (.99)	***			***
h 通学距離	2.97 (1.26)	2.68 (1.32)	***	***	**	
l 共通一次試験がないこと	3.70 (1.41)	3.49 (1.50)	**	**		

※ 平均値は5段階評定（中央値＝3）の結果であり、値の小さいほど受験の際によく考慮したことを示す

※ ○の中の数値は、各年度で受験の際によく考慮した要因の順位を示す

※ 有意水準は、 * p<0.05 ; ** p<0.01 ; *** p<0.001 を表す（以下同様）

Table 2 受験の際に考慮した程度についての学科間差
—平均値の差と学科内順位—

考慮要因	学科間の差 (検定)	学科内の順位			
	[平均値小——→平均値大]	家政	国文	英文	コミ
a 学業成績	家政 英文 国文 コミ * —————	①	②	②	③
g 自分のやりたい職業	コミ 英文 家政 国文 *** —————				⑤
c 自分の興味・関心	コミ 英文 国文 家政 *** ——— ** —————	④	③	③	①
j 先生の意見	家政 英文 国文 コミ * —————	⑤	⑤	⑤	
i 家族の意見	家政 英文 国文 コミ * —————	③	④	④	④
d 親の職業	家政 英文 国文 コミ * ——— ** * ——— * —————				
f この短大の評判		②	①	①	②

※ コミは、コミュニケーション学科の略 (以下 同様)

Table 3 受験の際に考慮した程度と入学形態

考慮要因	分散分析	平均値の差の検定
	有意水準	[小 —— 大]
b 模擬試験の成績	***	一般 外推 内推 * ——— ***
a 学業成績	***	外推 一般 内推 * ——— ***
g 自分のやりたい職業	*	外推 一般 内推 * ———
c 自分の興味・関心	**	外推 一般 内推 * ——— ***
j 先生の意見	***	外推 一般 内推 * ——— ***
i 家族の意見	***	外推 内推 一般 * ——— ***
k 友だちの意見	**	外推 一般 内推 * ——— ***
d 親の職業	**	内推 外推 一般 * ——— **
e 家庭の経済力	***	外推 一般 内推 * ——— ***
f この短大の評判	***	外推 一般 内推 * ——— ***
h 通学距離	***	外推 一般 内推 * ——— ***
l 共通一次試験がないこと	***	一般 外推 内推 * ——— ***

※ 内推；内部推薦入学者
外推；外部推薦入学者
一般；一般入試による入学者

1 受験の際に考慮したこと

① 1980年度入学生と1987年度入学生の比較

入学生の本学に対する基本的な態度は、本学あるいは本学の学科を受験する際にどんなことを考慮したかで推し量ることが出来るであろう。大学の大衆化・レジャー化がますます進み、社会、とりわけ受験生たちの大学に対する意味付けや大学選択の基準が変化しつつある現在、また本学にコミュニケーション学科が新設されたという本学自体の状況変化が生じている現在、その変化と現状を把握しておくことは本学関係者にとって大切なことである。

受験の際に考慮した程度についての1980年と1987年の年代差をまとめたものがTable 1である。なお、考慮要因の配列は、主因子法・バリマックス回転でおこなった因子分析の結果から3因子とその他にわけて記してある。

前回調査時の入学生に比べて本年の入学生がよく考慮するようになった要因は、「この短大の評判」「自分の興味・関心」「自分のやりたい職業」である。逆に本年の入学生のほうがあまり考慮しなくなった要因は、「学業成績」「先生・家族・友だちの意見」「親の職業」「家庭の経済力」「通学距離」「共通一次試験がないこと」である。

本学の学生は、もともと「この短大の評判」を気にする傾向が他の短大生よりも相当強かったのであるが(山田 1981)、その傾向はさらに強められており、前回の3位から今回わずかだが「学業成績」をも抜いて、とうとう考慮要因のトップになったことが注目される。

これは自己の進路選択に際して「学業成績」といった客観的な資料による判断よりは、「この短大の評判」といったイメージ的な情報処理やムード的感覚的判断が以前より優勢になり、重みを増してきたことを示している。

しかし、これは本学の学生だけの傾向ではないようである。同一項目の調査で1979年から1986年まで毎年進路意識を調べた後藤(1987)の結果と一致しているからである。それによれば、評判を考慮に入れる程度は、年を追うごとに強くなっている傾向が明らかであり、ある学科では平均して中点に近かった価が、ほぼ1点ほどの差異をもつほど変化したという。

したがって、「評判」というような実体がはっきりしないムードを自分の進路選択に重視する傾向は、かつての学生に比べて近年とみに顕著になってきた、現代の若者気質だといえるかもしれない。

また、今回は「家族や先生の意見あるいは友だちの意見」の考慮といった自主性の弱い判断や「親の職業」「家庭の経済力」「通学距離」といった社会的・経済的・物理空間的制約に縛られた判断から、「自分の興味・関心」「自分のやりたい職業」を考慮に入れる主体的で内的動機づけを重んじた判断や、自由に選択する傾向への変化もみられた。自分が何をやりたいかが、周囲への配慮よりも優先されるようになったことは、よい傾向だといえよう。

前述したように、本年度にコミュニケーション学科が新設され、はじめての新入生を迎えたという客観的状況の変化もあり、この年代差の検討にも学科別の要因を取り入れた。Table 1の各学科ごとの検定をみると、上記の傾向は英文学科入学生に顕著に見られる。つまり、英

文学科の学生は、他学科の学生よりも「自分の興味・関心」や「自分のやりたい職業」などを考慮に入れることが多く、学科の専門性をより重視している傾向がみられる。鹿内ほか（1982）によれば、同一項目の調査で短大での専門性の高い学科（看護科、保育科）と教養志向の学科とを比べると、前者では、上記の要因を考慮する割合が高いという結果が得られているからである。しかしその反面、英文学科の学生は、「この短大の評判」を気にする現代若者気質も強いようである。

家政学科および国文学科の入学生の場合は、他者の意見や種々の外的要因に制約されないで判断する傾向になってきているといえる。

② 学科間の比較

本学の4学科の間で受験の際に考慮した各要因の程度に差が見られたかどうかを検討した結果を示したのが Table 2 である。

家政学科入学生とコミュニケーション学科入学生との差が最も著しいことがわかる。コミュニケーション学科の入学生は自己の内的動機づけを重視しているのに対して、家政学科の入学生は外因的な要因により配慮を示す傾向がある。英文学科と国文学科の入学生はその中間にある。学科内の順位を見てもその傾向は裏付けられる。今後の適応の問題を考えるとコミュニケーション学科の学生には、その主体的・自発的な目的意識と意欲をいかに継続させていくか、家政・英文・国文学科の入学生には、潜在している自己の動機をいかに意識化させ主体的に学ぶ方向づけをもたせていくかが問題となると考えられる。

いずれにせよ入学生の興味・関心・将来の職業選択の展望についての動向把握を今後の教育や相談・救済活動に生かしていくことが必要であろう。

③ 入学形態間の差

この問題については1980年調査の報告（山田 1981）と同じような傾向であった。Table 3 に示したように、内部推薦入学者は他の受験生に比べて全般的によく考慮せずに進学してきている。それに比して外部推薦入学者はいろいろな要因についてよく考慮している。一般入試による入学者は入学選抜試験対策に苦慮してきている。内部推薦入学者が短大生活において自発的・主体的行動を期待されたり強いられるとき適応問題を生じやすいことが予想される。

Table 4

自己イメージ評定についての因子分析
 -バリマックス回転後の因子負荷量-

形容詞対		I	II	III	h ²
1	都会的な - 田舎っぽい	-.78	-.21	-.07	.64
9	カッコ良い - カッコ悪い	-.76	-.13	-.16	.63
13	あかぬけしない - 洗練された	.76	.21	.11	.63
5	ヤボな - ナウな	.73	.22	.14	.60
17	スマートな - イカサない	-.72	-.09	-.25	.59
12	ダメな - 優秀な	.44	.19	.36	.35
10	消極的な - 積極的な	.16	.86	-.02	.76
6	活発な - 無気力な	-.12	-.64	-.19	.46
14	強い - 弱い	-.11	-.51	-.02	.28
2	主体性のない - 主体性のある	.15	.49	.14	.28
18	特徴のない - 個性豊かな	.25	.45	-.01	.27
19	とっつきやすい - とっつきにくい	-.07	-.41	-.12	.19
4	不まじめな - まじめな	.06	-.00	.71	.50
16	勤勉な - 怠惰な	-.16	-.08	-.61	.41
20	根気のない - 根気のある	.07	.16	.52	.30
15	思いやりのない - 思いやりのある	.21	.24	.49	.34
3	親切的な - 不親切的な	-.09	-.20	-.47	.27
11	すなおな - 意地っ張りな	-.13	-.05	-.45	.22
7	ひくつな - おおらかな	.23	.28	.29	.21
8	用心深い - 軽率な	-.03	.20	-.36	.17
寄与率 (%)		16.41	11.96	11.71	40.08

※ 第I因子 [ナウでセンスのある]
 第II因子 [活動的で個性のある]
 第III因子 [まじめで良い子]

Table 5

自己イメージの評定における年代差
 - 平均値と標準偏差 -

形容詞対		1987年度生 (n=684)	1980年度生 (n=699)	有意 水準
都会的な	- 田舎っぽい	4.08 (.97)	3.88 (.98)	***
カッコ良い	- カッコ悪い	4.17 (.78)	4.14 (.78)	
洗練された	- あかぬけしない	4.14 (.87)	3.99 (.86)	**
ナウな	- ヤボな	4.00 (.80)	3.89 (.81)	**
スマートな	- イカサない	4.08 (.84)	4.08 (.84)	
優秀な	- ダメな	4.35 (.95)	4.19 (.77)	**
積極的な	- 消極的な	3.95 (1.27)	3.95 (1.30)	
活発な	- 無気力な	3.65 (1.30)	3.37 (1.23)	***
強い	- 弱い	4.07 (1.15)	4.00 (1.14)	
主体性のある	- 主体性のない	4.13 (1.39)	3.89 (1.31)	**
個性豊かな	- 特徴のない	3.66 (1.23)	3.65 (1.25)	
とっつきやすい	- とっつきにくい	3.93 (1.26)	3.67 (1.31)	***
まじめな	- 不まじめな	3.55 (1.24)	3.16 (1.08)	***
勤勉な	- 怠惰な	4.42 (1.17)	4.14 (1.13)	***
根気のある	- 根気のない	4.12 (1.39)	3.73 (1.27)	***
思いやりのある	- 思いやりのない	3.45 (1.07)	3.15 (1.27)	***
親切な	- 不親切な	3.48 (1.06)	3.14 (1.01)	***
すなおな	- 意地っ張りな	4.19 (1.31)	3.87 (1.36)	***
おらかな	- ひくつな	3.58 (1.20)	3.14 (1.11)	***
用心深い	- 軽率な	3.48 (1.23)	3.47 (1.24)	

※ 平均値は7段階評定(中央値=4)の結果である

※ 平均値の小さいほど形容詞対の左方向, 大きいほど右方向を示す

2 自己イメージ

自己イメージ測定尺度の作成

自己イメージを測定するためにSD法 (semantic differential technique) を用いた。形容詞対は1980年の調査に用いられた20対をそのまま使用した。評定は7段階で形容詞対の左方を1, 右方を7として評点し統計処理した。まず, 自己イメージの測定尺度を作成するため, 因子分析をおこなった。主因子法・バリマックス回転後の因子負荷量を因子ごとに負荷量の大きいもの ($|\cdot 40|$ 以上) の順に並べた結果 Table 4 のようになった。

第Ⅰ因子は『感性的評価因子』, 第Ⅱ因子は『力動性因子』, 第Ⅲ因子は『倫理的評価因子』と考えられる。各因子は内容的意味から「ナウでセンスのある—ヤボでセンスのない」「活動的で個性のある—無気力で存在感のうすい」「まじめで良い子—怠惰で悪い子」の次元を測定する尺度と考えた。尺度項目としては, 負荷量が $|\cdot 40|$ 以上のものを選んだ。なお, 個人の尺度得点としては「ナウでセンスのある」「活動的で個性のある」「まじめで良い子」の方向が高い得点になるように基の形容詞対の評点を変え, 各項目得点を加算してその平均値をあてた。

この因子分析の結果は, 南ほか (1979) が, 慶応義塾大学の学生におこなった自己イメージ調査の結果 (洗練性, 積極性, 勤勉性の3因子を抽出) とほぼ一致していた。

しかし本学の学生の意識では, 勤勉でまじめという項目とすなおで親切という項目とが結びついていた。したがって, 第Ⅲ因子は自分が社会から期待されている「良い子」の次元だと考えられた。「良い子」とは女性の場合には, まじめさだけではなくすなおで親切なことも関連が深いからである。

① 1980年度入学生と1987年度入学生の比較

1987年度のデータによる因子尺度に基づき配列しなおし, 自己イメージの年代間比較をしたのが Table 5 である。評定は7段階で形容詞対の左方を1, 右方を7として評点を与えた結果である。

1980年度の入学生と本年度の入学生との間には多くの形容詞対で有意差がみられた。とくに「まじめで良い子」尺度の各項目は著しい差がみられた。1980年度の入学生と比べて本年度の入学生は「田舎っぽく」「あかぬけしない」「ヤボな」「ダメな」私・「無気力な」「主体性のない」「とっつきにくい」私・「不まじめな」「怠惰な」「根気のない」「思いやりのない」「不親切な」「意地っぱりな」私・「ひくつな」私の方向に評定している。もちろんこれらは比較における差であり, 本年度の入学生の「まじめで良い子」尺度の平均値は4.13であり, 「活動的で個性のある」尺度の平均値は4.10といわば肯定的評価の方向にあるといえる。ただし, 「ナウでセンスのある」尺度は3.88でいわば『感性的評価』は否定的評価である (1980年度の入学生も本年度の入学生ほどではないがその傾向をもっていた)。

② 学科間の比較

3つの尺度についてそれぞれ分散分析をおこなった。その結果、3つの尺度すべて4学科間の平均値に差がないことがみとめられた。

③ 入学形態間の差

3つの自己イメージ尺度について分散分析をおこなった。その結果、第I因子の尺度と第II因子の尺度で、内部推薦入学者・外部推薦入学者・一般入試による入学者の間に有意差があることがわかった。そこで2つの群間の平均値の差の検定を試みると、「ナウでセンスのある」尺度では、内部推薦入学者の方が一般入試による入学者・外部推薦入学者より危険率0.01%で平均値が大きいことが明らかになった。また、「活動的で個性のある」尺度では、内部推薦入学者が外部推薦入学者より危険率0.5%で、一般入試による危険率0.01%で平均値が有意に大きいといえた。

学科別でみると、英文科の内部推薦者が外部推薦者および一般入試による入学者より「ナウでセンスがある」「活動的で個性のある」自己をイメージしていた。また、コミュニケーション学科の内部推薦入学者・外部推薦入学者が一般入試による入学者より「ナウいセンスのある」自己をイメージしていた。

学生の適応の観点から考えてみると、不適応の基準が家族・短大広くは社会の望ましい人間像との比較によって決められるという側面をもつし、短大生ともなれば自己の価値観との比較によるので『倫理的評価因子』『感性的評価因子』についてはそれと自己イメージとの間にギャップが感じられるとき問題化すると思われる。

つまり、本年度入学生は7年前の学生よりも自分を「不まじめな」とか「ヤボな」と見ているわけだが、それは必ずしも自己評価が低くなったとばかりはいえないであろう。社会的な価値観として、「まじめな」「すなおな」「都会的な」などが以前ほど絶対的に良いものと認められなくなり、価値観が多様化していることの反映とも考えられるからである。また自分を「まじめで良い子」という建前の枠の中にはめこまないで、本音で率直に自分を見つめているともいえる。

しかし『力動的因子』は精神的健康の観点から見れば、1980年度の入学生より本年度の学生の方が望ましい自己イメージとはいいがたい。つまり自分を「消極的な」「無気力な」「主体性のない」とみなしていることは、自信のなさを反映しており、自分を積極的に生かすという観点からみると問題であろう。

Table 6

淑徳短大の各学科イメージ評定全体についての因子分析
 -バリマックス回転後の因子負荷量-

形容詞対	I	II	III	h ²
16 しゃれた - やばったい	.76	-.03	.02	.56
8 古い - 新しい	-.72	.12	.16	.56
13 生き生きした - 生氣のない	.71	.30	.09	.61
17 地味な - 派手な	-.70	.09	.22	.55
10 単調な - 変化にとんだ	-.67	-.03	-.06	.45
15 動的な - 静的な	.67	.06	-.14	.47
19 開いた - 閉じた	.65	.14	.06	.45
9 明るい - 暗い	.58	[.42]	-.13	.54
12 はっきりした - ぼんやりした	.46	-.09	.16	.24
1 複雑な - 単純な	.42	-.30	[.41]	.44
7 親しみやすい - 親みにくい	.11	.74	.03	.55
5 やわらかい - かたい	.02	.70	-.23	.55
14 つめたい - あたたかい	.03	-.64	-.15	.43
2 のびのびした - きゅうくつな	.22	.52	-.28	.39
6 感性的な - 理性的な	-.09	.49	-.03	.25
4 深い - 浅い	.26	-.16	.57	.42
11 重い - 軽い	-.27	-.36	.50	.45
20 庶民的な - 貴族的な	-.39	.37	-.01	.29
3 男性的な - 女性的な	.38	-.29	-.20	.27
18 安定した - 不安定な	-.12	.15	.37	.17
寄与率 (%)	23.31	13.84	6.09	43.24

※ 因子負荷量を [] で囲んだ項目は、各因子尺度に含める

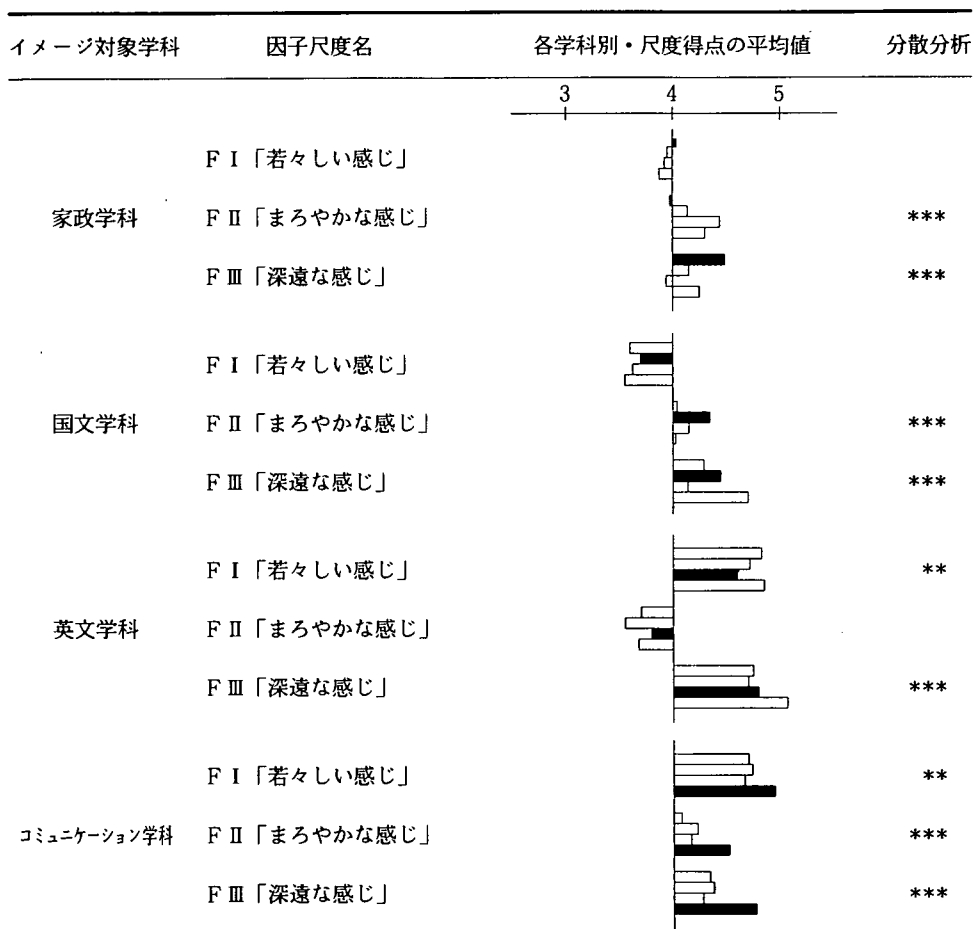
※ 第I因子 [若々しい感じ] 第II因子 [まろやかな感じ] 第III因子 [深遠な感じ]

Table 7 入学生の学科イメージの比較 - 平均値と標準偏差および検定 -

因子尺度名	各学科イメージの平均値 (標準偏差) と差の検定			
F I 「若々しい感じ」	国文学科 3.61 (.62)	家政学科 3.95 (.63)	英文学科 4.72 (.75)	コミュニケーション学科 4.73 (.72)

F II 「まろやかな感じ」	英文学科 3.67 (.85)	国文学科 4.15 (.83)	家政学科 4.20 (.82)	コミュニケーション学科 4.21 (.82)

F III 「深遠な感じ」	家政学科 4.19 (.81)	国文学科 4.34 (.80)	コミュニケーション学科 4.40 (.80)	英文学科 4.76 (.81)
	**		***	



※ グラフは、それぞれ上から 家政・国文・英文・コミュニケーション の各入学生の結果を示す
 ※ 黒塗りの棒グラフは、各所属学科の入学生の結果である

Fig. 1 入学学科による各学科イメージの差

3 学科イメージ

学科イメージ測定尺度の作成

学科イメージ尺度の作成は、自己イメージと同様SD法を用い因子分析をおこない、その結果を検討しておこなった。用いた形容詞対の選択手続きについては、調査票の作成のところで述べたようである。ただしデータは各学生が4学科すべてについてのイメージを評定したので2716が分析対象データとなった。因子分析の結果は Table 6 に示した。第Ⅰ因子は『活動性因子』、第Ⅱ因子『感性的評価因子』、第Ⅲ因子は『力量因子』と考えられる。各因子は内容的意味から「若々しい感じ-古めかしい感じ」「まろやかな感じ-堅固な感じ」「深遠な感じ-浅薄な感じ」の次元を測定する尺度と考えられる。尺度項目の選択および尺度得点の算出法も自己イメージ尺度の作成に準じた。

① 入学生の各学科イメージ

入学生全体が各学科に対してどんなイメージを抱いているかをみたのが Table 7 である。「若々しい感じ」尺度に関して、尺度得点の平均値の差の検定ではコミュニケーション学科・英文学科と家政学科の間に有意差があり、さらに家政学科と国文学科の間にも有意差がみられた。平均値をみると入学生はコミュニケーション学科と英文学科には「若々しい感じ」を抱き、家政学科にはすこし「古めかしい感じ」、国文学科には「古めかしい感じ」をもつようである。「まろやかな感じ」尺度は、コミュニケーション学科・家政学科・国文学科と英文学科との間に有意差がみられた。コミュニケーション学科・家政学科・国文学科は「まろやかな感じ（やさしく包み込んでくれる温かい感じ）」がイメージされ、英文学科には「堅固な感じ（理性的で堅くるしい感じ）」を抱いている。「深遠な感じ」尺度では、英文学科、コミュニケーション学科、国文学科、家政学科それぞれの間に有意差がみられた。どの学科も「深遠な感じ」をイメージするのだがその程度には差がある。

② 入学学科による各学科イメージの差

自分の所属する学科のイメージと他の学科の学生のもつイメージには違いがあるのかどうかを検討するために入学学科別にそれぞれ4学科のイメージを比較したのが Fig. 1 である。

家政学科についてのイメージ 「まろやかな感じ」「深遠な感じ」の2尺度で4学科の間で差がみられた（分散分析の結果）。

「まろやかな感じ」に関して、所属学科である家政学科の学生と英文学科の学生との間には危険率0.1%、コミュニケーション学科の学生との間には危険率1%で有意差がみられた。いずれの学科よりも家政学科の学生の方が、自分の所属する家政学科に対して「まろやかな感じ」をイメージしていない。

家政学科の入学生は、自己の所属する学科の「深遠な感じ」イメージを他のどの学科よりも強く感じている（コミュニケーション学科との間には危険率5%、国文学科・英文学科とは危険率0.1%で有意差あり）。とくに、家政学科の入学生が、わりに「深遠な感じ」で家政学科をみているのに比して、英文学科の学生は、むしろ「浅薄な感じ」で家政学科をみていると

いう対称を示している。

国文学科についてのイメージ 分散分析の結果、4学科間に「まろやかな感じ」「深遠な感じ」尺度で有意な差がみとめられた。

国文学科の入学生は、英文学科・コミュニケーション学科・家政学科の入学生よりも自分の所属する国文学科に対して「まろやかな感じ」を抱いている（それぞれの順に危険率5%・1%・0.1%で有意差あり）。

国文学科の入学生よりコミュニケーション学科の入学生の方が国文学科に「深遠な感じ」を強く感じ（危険率5%で有意差あり）、英文学科の入学生は国文学科の入学生より国文学科にそれほど「深遠な感じ」を抱いていない（危険率1%で有意差あり）。

英文学科についてのイメージ 分散分析の結果、4学科間に「若々しい感じ」「深遠な感じ」の2尺度で有意な差がみられた。

自己の所属する英文学科に対して英文学科の入学生は、他の学科の入学生に比べてそれほど「若々しい感じ」を抱いていない（家政学科・コミュニケーション学科とは危険率0.1%で有意差あり）。

コミュニケーション学科の入学生は、英文学科の入学生より英文学科に対して「深遠な感じ」を抱いている（危険率1%で有意差あり）。

コミュニケーション学科についてのイメージ 分散分析の結果、3尺度とも有意であった。

コミュニケーション学科の入学生は、少なくとも危険率5%で他の学科の入学生よりも「若々しい感じ」「まろやかな感じ」「深遠な感じ」を強く自己の所属するコミュニケーション学科に抱いているといえる。

学科のイメージは、単に各尺度の方向性によって良い-悪いといった評価でとらえるのではなく、その学科のもつイメージに学生が肯定的な意味を感じるかどうかでとらえる必要がある。もちろん、こうしたイメージをもっている入学生に対して教職員が好意的にとらえたり受容的態度で接するか否かによって学生の適応感は左右されるであろう。学生が自己の所属する学科に良い意味でのプライドや肯定的な所属意識を持つことは、短大生活の充実感や適応感に大きな影響をもつであろうし、それぞれの学科における学習・研究の意欲に関係する。入学生のこうした学科イメージを十分把握し、教育や学生生活の援助に役立てていく必要があるであろう。

③ 入学形態間の差

各学科に内部推薦で入学してきた学生と外部推薦で入学してきた学生と一般入試によって入学してきた学生との間で、それぞれ自分の所属する学科に対してのイメージが異なるかどうかを分散分析によって調べた。

家政学科について 分散分析の結果、3尺度ともに有意な差がみられることがわかった。

外部推薦入学者・一般入試による入学者は、内部推薦入学者よりも「若々しい感じ」を抱いている（危険率0.1%で有意差あり）。しかも、内部推薦入学者は「古めかしい感じ」の方向

に平均値がある。

一般入試による入学者・外部推薦入学者は、内部推薦入学者より家政学科に対して「まろやかな感じ」をもっている（一般入試による入学者との間には 1%，外部推薦入学者との間には 5%の危険率で有意差）。

外部推薦入学者は、内部推薦入学者・一般入試による入学者よりも「深遠な感じ」を抱いている（それぞれ 5%，0.1%の危険率で有意差）。

国文学科・英文学科について 入学形態間で学科イメージの差はなかった。

コミュニケーション学科について 一般入試による入学生は、内部推薦入学者よりも「まろやかな感じ」を自分の所属するコミュニケーション学科に抱いている（危険率 5%で有意差あり）。また、内部推薦入学者は、外部推薦入学者より「深遠な感じ」をもっている（危険率 5%で有意差あり）。

Table 8
入学後の学生生活についての満足度
—平均値・標準偏差および学科間の差—

項 目	平均値 (標準偏差)	学科間の差 (検定) [平均値小——平均値大]
10 現在の学生生活全体	3.10 (.95)	
1 短大の雰囲気	3.18 (1.00)	
3 教員との関係	3.21 (.77)	
4 職員との関係	3.17 (.70)	
5 授業科目の内容	3.50 (.86)	国文 コミ 英文 家政 [*] [***] [*] [*] [***]
6 授業内容のレベル	3.21 (.78)	国文 英文 コミ 家政 [*] [***] [***] [*] [*] [***]
2 友人との関係	2.40 (1.01)	国文 コミ 英文 家政 [*] [*] [*] [*]
7 施設・設備	3.81 (1.06)	コミ 英文 家政 国文 [*] [***] [***] [*]
8 課外活動	3.25 (.91)	
9 学外の生活 [アルバイトなど]	2.91 (.95)	コミ 国文 家政 英文 [*] [***] [***] [*]

※ 平均値は 5 段階評定の結果（中央値 = 3）であり、値の小さいほど満足していることを示す

4 入学後の学生生活の満足度

Table 8は入学後の学生生活についての満足度の結果である。全体的にみると、「友人との関係」やアルバイトなどの「学外の生活」には満足度が高く、「施設・設備」や「授業科目の内容」などには不満が大きいことがわかる。そして教職員との関係や課外活動を含めて学内の学生生活については総じて中央値よりもやや不満方向に偏っている。

この結果から学生の期待に十分には応えていない教育者の側のあり方を反省すべきであろう。「施設・設備」についてもその内容を明確に把握し対策を考える必要があるだろう。しかし、他の解釈も可能である。例えば、不満なのは安易に満足しない若者の向上心の高さの表われとも、自分で積極的に満足な状態をつくらうとしない甘えが含まれているとも考えられる。あるいは、本業の勉強よりも友人関係やアルバイトなどに関心とエネルギーを向けている現代学生気質の反映なのかもしれない。

次に学科間で満足度について有意差が出た項目をみていきたい。「授業科目の内容」と「授業内容のレベル」については、国文学科がもっとも満足度が高かった。その次に英文とコミュニケーション学科、そして家政学科という順序であった。国文学科の学生は「友人との関係」でも満足度が高く、新設のコミュニケーション学科では「施設・設備」で満足度が高かった。英文学科の学生は、「学外生活」においては他の学科生よりも不満が大きかった。

入学形態のちがいによる満足度の差は、「現在の学生生活全体」で、内部推薦者がもっとも満足しており、次に外部推薦者、一般入試の学生という順序がみられた。

Table 9
現在、悩み困っていることの程度
— 平均値・標準偏差および学科間の差 —

項 目	平均値 (標準偏差)	学科間の差 (検定) [平均値小——平均値大]
1 健康状態	2.78 (.46)	
2 経済状態	2.48 (.68)	国文 コミ 英文 家政
3 対人関係	2.65 (.57)	
4 自分の性格	2.38 (.68)	
5 異性との関係	2.58 (.63)	
6 家庭のこと	2.80 (.45)	
7 短大への適応	2.59 (.60)	
8 将来のこと	2.14 (.64)	
9 授業について	2.23 (.67)	家政 コミ 英文 国文 *** * * * *
10 生き方について	2.37 (.66)	コミ 国文 家政 英文 ** * * —

※ 平均値は3段階評定の結果であり、値の小さいほど困っていることを示す

Table 10
悩みについでる学生相談室利用の希望者数

相談室利用の希望	全体	家政	国文	英文	コミ
1 すぐにも、相談したいと思う	13	4	2	5	2
2 そのうち、相談したい	162	35	53	46	28
3 相談するほどではない	500	151	129	138	82
合計	675	190	184	189	112

Table 11
学生相談室の利用に対する希望の有無に關与する要因

關与する要因	相談希望	全体	家政	国文	英文	コミ
問4 受験の際に考慮した要因						
e 家庭の経済力(熟慮)	有	***		*		*
問5 自己イメージ						
F I 「ナウでセンスのある」	無	**	**	*	*	
問6 学科イメージ						
家政学科						
F I 「若々しい感じ」	無		**			
F III 「深遠な感じ」	有					*
英文学科						
F I 「若々しい感じ」	有	*	*			
コミュニケーション学科						
F I 「若々しい感じ」	有	*				
F II 「まろやかな感じ」	有					**
問7 入学後の学生生活の満足度						
1 短大の雰囲気(満足)以下同じ	無	*	**	*		
2 友人との関係	無	**	**	*		
4 職員との関係	無		*			
5 授業科目の内容	無		**			
6 授業内容のレベル	無		*			
8 課外活動	無	**	*	*		
10 現在の学生生活全体	無	***	*	**	*	
問8 現在、悩み困っている程度						
1 健康状態(困っている)以下同じ	有	***		**		
2 経済状態	有	**		**	*	
3 対人関係	有	***	***	***	***	
4 自分の性格	有	***	***	***	***	
5 異性との関係	有	***	**	***		
6 家族のこと	有	**		**		
7 短大への適応	有	***	***	***	***	
8 将来のこと	有	***	***	***	***	*
9 授業について	有	***	***	**	***	
10 生き方について	有	***	***	***	***	

5 悩みの程度と学生相談の必要性

Table 9は、現在悩み困っている程度をきいた結果である。学科間で有意差のあった項目のみを見ると、「経済状態」では国文学科生がもっとも困っており、家政学科生はあまり困っていなかった。

「授業について」は、家政学科とコミュニケーション学科の学生が、英文や国文の学生よりも困っていた。これは、高校までの授業でおよその内容が予想できる学科と、かなり幅広い分野を扱って内容が簡単にはわかりにくい学科の差かもしれない。

「生き方について」は、英文学科生が一番困っていなかった。

Table 10は、悩みについての学生相談室利用の希望者数である。どの学科でもかなりのニーズがみられた。全体では、「すぐにでも相談したいと思う」「そのうち相談したいと思う」を合計すると、175人(25.9%)にのぼった。

Table 11は、学生相談室の利用希望の有無と他の調査項目との相関が、有意であった項目を表にしたものである。なお相談希望「有」とは「すぐにも相談したいと思う」と「そのうち相談したいと思う」と答えた者を合計したものである。

その結果、受験の際に「家庭の経済力」をよく考慮した国文学科の学生は、相談希望有りの傾向がみられた。また当然のことながら、一般に「入学後の学生生活に満足している程度」が高い学生は相談希望が無く、「悩みや困っている程度」が高い学生は相談希望をもっていた。

イメージとの関連では、次のような結果が見られた。自己イメージで自分を「ナウでセンスある」とみた学生は、一般に相談希望無しと答えた。

学科イメージについては、特に第I因子の「若々しい感じ」が、相談希望の有無と関係していた。家政学科生の場合には、自分の学科(家政学科)を「若々しい」とイメージしている人は相談の必要を感じていなかった。英文学科やコミュニケーション学科は、先に見たように他学科の学生から「若々しい」というイメージで見られやすい学科であるが、特に家政学科生で英文学科やコミュニケーション学科を「若々しい」とみる学生は相談希望有りの傾向があった。

一般に、自己イメージにおいても学科イメージにおいても、自分自身や自分の学科をナウとか生き生きしているとかいうように肯定的にみている人は、相談希望を持たないことがわかる。

以上が学生相談室調査のおもな結果報告である。新入生はさまざまな当惑に出会う。それは高校までの勉強形態や対人関係などの環境の大きな変化からみて当然である。場合によっては、本来の志望ではなかったという後悔や、想像とは違っていたという失望や、他人が良くみえる劣等感を感じたりする。

しかし、自分が心に抱いていた想いと現実との間に落差ができて「こんなはずではなかったのに」という気持が生じるのは人生のあらゆる局面で起こる。そして新しいなじめない環境でいかに自分の力を発揮していくかも常に問われる課題である。それこそが適応の問題であるが、それは新入生だけに問われることではない。主体的に生きる自己の力をいかに獲得していくか

という基本的問題だからである。

したがって学生の適応を援助する活動は、すぐれて教育的な活動である。そのために今回得た情報をいろいろに活用していきたい。

また、この調査に協力していただいた学生の皆さんには、学生相談室から次のようなメッセージを伝えておきたい。

もしあなたが今の自分がみじめに見えたり、現在の自分の学科が輝くステキなものに見えず、他人や他学科がうらやましく見えるならば要注意である。隣の芝生が青く見えるのは人間の常だが、それは本当に青いからというよりは、自分の心のなかの満たされない想いの投影だからである。外へと投影しないで、そんな自分の心を率直に見つめる勇気が必要である。

しかし青い芝生を求める心は理想を求める気持でもあるから、安易に自己満足し簡単に妥協してしまうよりも尊いのである。不満があるのは決して悪いことではない。問題はそれからの生き方である。責任を外へ転嫁して不満をくすぶらせるか、潔く自分や自分のおかれた環境を引き受けて良い所を発見できるようになるかである。

自分自身や自分の所属する学科をポジティブにとらえ、マイナスに見えたものもプラスへと変えていくことによって主体的に自己受容できた時点から、あなたの人生は大きく変わることであろう。

付記

本研究を進めるに当たり、調査の実施に際しては本学の学生部学生課の皆さんに、統計処理に関しては廣岡秀一講師に大変お世話になりました。記して感謝致します。

本研究の資料の分析には、名古屋大学大型計算機センターの FACOM M-382 が用いられた。

文献

- 笠原嘉・山田和夫編 1981『キャンパスの症状群』弘文堂
- 後藤宗理 1987 短大入学者の進路意識に関する研究『名古屋市立保育短期大学研究紀要』26,1-14.
- 鹿内啓子・後藤宗理・若林満 1982 女子大生の社会的・職業的役割意識の形成過程に関する研究 ―性別役割タイプと自己能力評価を中心として―『名古屋大学教育学部紀要―教育心理学科―』29, 101-136.
- 高岡実・伊藤章・土川隆史・長田雅喜 1980 最近の学生の特徴とその背景『東海地区一般教育研究会報告書』4-32.
- 鳴澤寛編 1986『学生・生徒相談入門 ―学校カウンセラーの手引と実際―』川島書店
- 南隆男・若林満・西河政行・小林ポオル 1979 大学組織における学生の自我同一性確立過程―総合的継時分析にむけての覚え書き―『慶応大学 哲学』71, 97-162.
- 山田洋子 1981 短大生の適応に関する研究 ―入学形態と精神的健康との関係―『愛知淑徳短期大学研究紀要』20,39-55.

付表

あなた自身のために

入学されてから、はや2か月ほどたちました。みなさん、淑徳短大の学生生活をいかがお過ごしですか。こんなはずではなかったと失望したり、自分が何をしたいのかよくわからなかったり、これからの生き方に不安を感じたりすることも、時々あるのではないのでしょうか。

学生相談室では、皆さんと、人生について、自己について、さまざまな悩みについて、日々考えていること、感じていることを話し合っていきたいと思っています。そして、皆さんが本来もっている力を十分発揮できるように、また、充実した学生生活が送れるように助力したいと考えています。

そこで、学生相談室では、新しく短大の1員となられた皆さんについての理解を少しでも深めたいと願って、調査を計画しました。この調査に記入することで、皆さんにとっても、自分自身について改めて考え直す一つの契機になれば幸いです。

なお、この資料は統計的に処理し、個人について言及することは一切ありませんので、安心して、ありのままを自由に書いて下さい。

記入した調査表は、6月30日(火曜日)までに、封筒にいれ、封をしてクラス代表に提出して下さい。[必ず提出して下さい]

学科 年 組
昭和 年 月 日 記入

あなたの事について、いろいろお聞きします。あてはまる番号に○印をつけて答えてください。具体的に記入する問いについても、ありのまま答えて下さい。

- 1 あなたは、この短大へどのような方法で入学しましたか。
1. 一般入試 2. 淑徳高校からの推薦
3. 他の高校の推薦
- 2 あなたは、この短大への進学が第1志望でしたか。
1. 第1志望 2. 第2志望 3. 第3志望
4. 第4志望以下
- 3 本学も含めて、受験した大学・短大を志望順に、すべてあげて下さい。学部、学科名も全部書いて下さい。また、合否の欄には、合格の場合には○印を、不合格の場合には×印を記入して下さい。

志望順位	大学・短大名、学部名、学科名	合否
(1)	[]	()
(2)	[]	()
()	[]	()
()	[]	()
()	[]	()
()	[]	()

4 あなたは、本学受験を決めた時、以下の事柄をどの程度考えに入れていましたか。各項目のあてはまるところの数字に○印をつけて下さい。

	入 れ た 考 え に	入 れ た 考 え に	え ど ち ら と も い	入 れ な か つ た	あ ま り 考 え な か つ た	入 れ な か つ た
a 学業成績	1	2	3	4	5	
b 模擬試験の成績	1	2	3	4	5	
c 自分の興味・関心	1	2	3	4	5	
d 親の職業	1	2	3	4	5	
e 家庭の経済力	1	2	3	4	5	
f この短大の評判	1	2	3	4	5	
g 自分のやりたい職業	1	2	3	4	5	
h 通学距離	1	2	3	4	5	
i 家族の意見	1	2	3	4	5	
j 先生の意見	1	2	3	4	5	
k 友だちの意見	1	2	3	4	5	
l 共通一次試験がないこと	1	2	3	4	5	

5 現在の時点での、「あなた自身」のイメージをお答え下さい。以下に、20の対になったことばがあります。それらを見て、対になったことばのあいだにある七つの数字のうち、あなたの気持ちに一番ぴったりするところを選び、その数字を○でかこんで下さい。

[わたし自身]のイメージ

	非 常 に り し	か す こ な に	も ど ち ら に も い ら ず	す こ な に り し	か 常 に り し	非 常 に り し
1 都会的な	1	2	3	4	5	6-7 田舎っぽい
2 主体性のない	1	2	3	4	5	6-7 主体性のある
3 親切な	1	2	3	4	5	6-7 不親切な
4 不まじめな	1	2	3	4	5	6-7 まじめな
5 ヤボな	1	2	3	4	5	6-7 ナウな
6 活発な	1	2	3	4	5	6-7 無気力な
7 ひくつな	1	2	3	4	5	6-7 おおらかな
8 用心深い	1	2	3	4	5	6-7 軽率な
9 かつこ良い	1	2	3	4	5	6-7 かつこ悪い
10 消極的な	1	2	3	4	5	6-7 積極的な
11 すなおな	1	2	3	4	5	6-7 意地っぱりな
12 ダメな	1	2	3	4	5	6-7 優秀な
13 あかぬけしない	1	2	3	4	5	6-7 洗練された
14 強い	1	2	3	4	5	6-7 弱い
15 思いやりのない	1	2	3	4	5	6-7 思いやりのある
16 勤勉な	1	2	3	4	5	6-7 怠惰な
17 スマートな	1	2	3	4	5	6-7 イカサない
18 特徴のない	1	2	3	4	5	6-7 個性豊かな
19 とっつきやすい	1	2	3	4	5	6-7 とっつきにくい
20 根気のない	1	2	3	4	5	6-7 根気のある

6 現在の時点での、「淑徳短大の各学科」のイメージをお答え下さい。以下は20の対になったことばがあります。それらを見て、対になったことばのあいだにあるじつの数字のうち、あなたの気持ちに一番ぴったりするところを選び、その数字を○でかこんで下さい。

◎自分の所属学科でない学科についても、お答え下さい。

「家政学科」のイメージ

	非 常 に り	か な こ し	す も ち い で	ど ち ら に	か な り	非 常 に	
1 複雑な	1-2-3-4-5-6-7					単純な	
2 のびのびした	1-2-3-4-5-6-7					きゅうくつな	
3 男性的な	1-2-3-4-5-6-7					女性的な	
4 深い	1-2-3-4-5-6-7					浅い	
5 やわらかい	1-2-3-4-5-6-7					かたい	
6 感性的な	1-2-3-4-5-6-7					理性的な	
7 親しみやすい	1-2-3-4-5-6-7					親しみにくい	
8 古い	1-2-3-4-5-6-7					新しい	
9 明るい	1-2-3-4-5-6-7					暗い	
10 単純な	1-2-3-4-5-6-7					変化にとんだ	
11 重い	1-2-3-4-5-6-7					軽い	
12 はっきりした	1-2-3-4-5-6-7					ぼんやりした	
13 生き生きした	1-2-3-4-5-6-7					生氣のない	
14 つめたい	1-2-3-4-5-6-7					あたたかい	
15 動的な	1-2-3-4-5-6-7					静的な	
16 しゃれた	1-2-3-4-5-6-7					やぼったい	
17 地味な	1-2-3-4-5-6-7					派手な	
18 安定した	1-2-3-4-5-6-7					不安定な	
19 開いた	1-2-3-4-5-6-7					閉じた	
20 庶民的な	1-2-3-4-5-6-7					貴族的な	

以下【国文学科】のイメージ、【英文学科】のイメージ、【コミュニケーション学科】のイメージについても同様。

7 淑徳短大へ入学後の生活はいかがですか。以下の各内容についての満足の程度にあてはまる数字に○印をつけて下さい。

	お お い に 満 足	や や 満 足	え ど ち ら と も い	や や 不 満	全 く 不 満
1 短大の雰囲気	1-2-3-4-5				
2 友人との関係	1-2-3-4-5				
3 教員との関係	1-2-3-4-5				
4 職員との関係	1-2-3-4-5				
5 授業科目の内容	1-2-3-4-5				
6 授業内容のレベル	1-2-3-4-5				
7 施設・設備	1-2-3-4-5				
8 課外活動	1-2-3-4-5				
9 学外の生活 [アルバイトなど]	1-2-3-4-5				
10 現在の学生生活全体	1-2-3-4-5				

* 不満の内容を具体的に書いて下さい。

[]

8 現在、困ったり、悩んでいることはありませんか。以下の各項目のうち、あてはまるところの数字に○印をつけて下さい。

かなり困っている 少し困っている 困っていない

1 健康状態	1	2	3
2 経済状態	1	2	3
3 対人関係	1	2	3
4 自分の性格	1	2	3
5 異性との関係	1	2	3
6 家庭のこと	1	2	3
7 短大への適応	1	2	3
8 将来のこと	1	2	3
9 授業について	1	2	3
10 生き方について	1	2	3

9 現在困ったり悩んでいることについて、学生相談室で相談したいと思いませんか。あてはまる数字に○印をつけて下さい。

- 1 すぐにも、相談したいと思う
- 2 そのうち、相談したい
- 3 相談するほどではない

*相談のある人は、気軽に学生相談室を利用して下さい

10 U P I の質問項目 (省略)

11 最後に、学生生活についてやこの調査について、あなたの感想、意見、希望がありましたら、何でも書いて下さい。

[]

* 調査に御協力ありがとうございました。

学生相談室員 永田、山田